

提案型協働事業評価シート

資料 1

実施年度	令和 6 年度
事業の名称	こども対話カフェ(こども対象哲学カフェ)
団体名	対話カフェつむぎ
担当課名	教育相談室

【推進委員及び庁内委員による総合評価】

結果	協働事業の評価
	当該協働事業を実施したことで、具体的に市民サービスが向上する等、適切な協働事業として評価できるものである。
○	ほぼ適切な協働事業として評価できるものである。
	協働事業として、うまく機能しなかった。

協働事業に関する総評

団体と担当課が、事業の目的や情報を共有し、互いの取り組みを理解しながら、「こども対話カフェ」を年間6回・ファシリテーター研修1回という意欲的な開催を実施された点が、協働事業として評価できます。事業内容については、ゲームでのアイスブレイクや参加者の考えを深めるための動画視聴、対話後のカフェの時間など、子ども達が楽しみながら参加できるよう工夫した内容となっています。

昨年度からの参加者が継続参加しており、事業の様子からも、相手の意見や考えを受けとめ、質問を行いながら、対話を行う参加者の様子から目的に沿った有意義な内容であったことが伺えます。また、「ファシリテーター入門体験会」については、18名という多くの参加者があり、地域での認知度の向上につながったこと、また地域や家庭での課題の発見につながったことも評価できます。互いの違いを認め受け入れ、お互いの人権を尊重できる対話手法を身に着けることは、市や子どもたちが抱える「不登校」「生きづらさ」「いじめ」の問題について、解決の一助になると考えられます。

また、昨年度からの課題である参加者数の増加について、担当課と検討・工夫しながら周知方法や開催場所の変更に取り組んだ点が評価できます。今後の実施については、引き続き参加したくてもできない、参加について一歩踏みだせない子ども達について分析を行い、周知・参加方法を検討の上、多くの子ども達に参加してもらえることを期待します。

